

平成30年度

授業改善推進プラン

平成30年9月10日

多摩市立多摩永山中学校

分析と改善策

国語 内容及び観点別の分析					
観点	国語への関心 ・意欲・態度	話す聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解
到達度	満足できる	満足できる	ほぼ満足できる	ほぼ満足できる	ほぼ満足できる
課題点	全体的に関心は高いが自主的な取り組みの質を更に向上させたい。	発表するときの姿勢・態度を向上させたい。討論活動の充実を図る。	構成力の基本を定着させ、テーマや時間設定をしながら作文の時間を確保する。	定期テストの答え方に留意させ、読解のポイントを意識させる。	漢字書き取り能力を向上させたい。併せて文法の基礎の定着を図る。
<p>1 一年生は「話す聞く能力」の向上に努める。今後はディベート形式の討論活動に力を入れていく。同時にスピーチや聞き取りテストの回数も確保する。</p> <p>2 二年生ではクリティカルシンキングを中心に思考力の向上に努める。また、基礎的な学習に特に留意させ、漢字の書き取りや作文など細かい点の指導にも気を配る。</p> <p>3 三年生はテストにおける読解力の向上に努める。問題形式のプリント学習や作文に取り組む機会を増やす。</p>					
<p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人前で話す技能を定着させるために、スピーチやビブリオバトル、ディベートの回数を増やす。 ・クリティカルシンキングの場面を明確に示し、思考力の向上に努める。 ・作文の段落構成を意識して書かせることにより、より質の高い内容の文章を書けるようにする。 ・司書と協力し、図書室を有効利用していく。 			<p>【補充・発展指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表に際しては、マッピングシートやプロットを用意して生徒に選択させる。 ・さまざまな字数の作文を書かせる。 ・読書活動や調べ学習の充実を図るため、司書と協力をしながら図書室を活用する。 		

社会 内容及び観点別の分析				
観点	社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての 知識・理解
到達度	十分に満足できる	やや不十分である	ほぼ満足できる	ほぼ満足できる
課題点	全体的に関心は高いが、積極的に自ら学ぶ意欲をさらに向上させたい。	多面的・多角的な視点から考え、論理的に自分の言葉で表現する力を高めたい。	グラフや写真から有用な情報を読み取り活用する力をさらに高めていきたい。	単純に用語を覚えているだけではなく、その意味内容や背景も知識として定着させたい。
<p>・学習内容と身の回りの事象とを結びつけて、自ら発展的に追究したいという意欲を導き出し、持続可能な社会を築く資質を育成する必要がある。</p>				
<p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークを効果的に取り入れ、他者の意見を聞くことで多面的・多角的な視点を育成し、自分の考えを相手に伝えるために論理的にまとめることの重要性にも気付かせる。 ・ワークシート等を通して、資料活用の技能を高める。 ・長期期間中の課題（調べ学習・課題作文等）を通して、資料活用の技能や思考・判断・表現力を高める工夫をする。 			<p>【補充・発展指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習事項の復習や発展的な学習に取り組める課題や、調べてまとめる課題に取り組む。 ・長期休業中に学習教室を開き個に応じた補充・発展指導を行う。 ・定期テストの前に、学習教室を実施する。 	

数学 内容及び観点別の分析				
観点	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な表現・処理	数学・図形などについての知識・理解
到達度	ほぼ満足できる	やや不十分である	ほぼ満足できる	ほぼ満足できる
課題点	どの学年も全体的に授業に意欲的に取り組んでいる。提出物に対して意識の低い生徒や授業に集中できない生徒の意欲を向上させることが課題である。	基本の知識・技能を活用する文章問題や応用問題などにおいて、問題を読み取ることや解き方を考えることに課題がある。	基礎的・基本的な計算についてはおおむね身に付いている。定着が不十分な生徒の計算力を高めることが課題である。	基礎的・基本的な知識はおおむね理解できている。暗記するだけでなく、自分の言葉で説明できるようにし、様々な場面で活用できるようにすることが課題である。
<p>数学の基本的な知識・技能および、身の回りの事象を数学的にとらえて思考・判断・表現する力を身に付ける必要がある。</p>				
<p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習習慣を身に付けるため、定期的に宿題を設定し、未提出の生徒には個別に声をかけて意識を高める。 机間指導を充実させ、授業に集中できない生徒や苦手意識のある生徒にも配慮した授業を行う。 習熟度別少人数指導を生かし、個々の学力に応じた目標及び授業展開を工夫する。具体的には、基礎コースでは基本的な知識や技能の定着、標準コースでは基本的な知識や技能の定着およびそれらを活用する力の育成、発展コースでは自ら数学的な考え方を活用する力の育成を目指す。その際、机間指導を充実させたり、学び合いの機会を設けたり工夫して授業を行う。 小テストや宿題等を利用して、基本的な知識や技能が習得できているかを随時確認する。 			<p>【補充・発展指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> 朝学習や宿題、小テスト、東京ベーシックドリルを活用し、基本的な知識や技能の定着をはかる。 定期テスト前に学習教室を実施し、質問に個別に対応する。 長期休業中に学習教室を実施し、既習事項の確認を行う。 発展コースでは、必要に応じて教科書レベル以上の発展的な課題を提示し、数学的な考え方を伸ばす。 	

理科 内容及び観点別の分析				
観点	自然事象への関心・意欲・態度	科学的な思考	観察・実験の技能・表現	自然事象についての知識・理解
到達度	十分に満足できる	やや不十分である	ほぼ満足できる	ほぼ満足できる
課題点	実験、観察に対し積極的に取り組む。考えて発表することに対して意欲的だが一部あきらめてしまう生徒がいるのが課題である。	実験結果を考察し、考えをまとめることに対し慣れてきたが、論理的に考えを組み立てられるようになるにはさらなる習熟が必要である。	実験器具の取り扱いについてはほぼ行うことができる。安全面に対する想像力を高める必要があると考える。	具体的な身の回りの事象と結びつけることにより、より深い理解を目指していく。
<p>・クリティカルシンキングやアクティブラーニングの手法を取り入れ、対話的な学びを行わせながら、身の回りの事象と結びつけることにより学習内容の定着を図る。</p>				
<p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 少人数グループによる話し合い及び発表の活動をできるだけ多く取り入れるとともに、学習し事を文章で表現させ課題に対する考え方を身に付けさせることにより思考力の向上を図る。 実験観察（実験観察が行いづらい内容の場合は視聴覚教材）を可能な限り多く取り入れ、実物を見せると同時に身の回りの事象と結びつける。 			<p>【補充・発展指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小テストを数多く行うことで学習したことの定着を図る。 定期テストの前に学習教室を行い、授業の振り返りを行う。 	

外国語（英語） 内容及び観点別の分析				
観点	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
到達度	十分に満足できる	やや不十分である	やや不十分である	ほぼ満足できる
課題点	関心は高いが、自信をもって取り組めるように促していく必要がある。	まとまった英文を書く、まとまった英文を話す取組の時間を確保する必要がある。	まとまった英文の内容を読み取る取組に時間をかける必要がある。	学習内容の理解はできているが、定着の度合いに差がある。
<p>【総合分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識として理解していても、自信のなさから積極的な活用につなげていない。書く教材、話す教材の研究とALTの活用重点をおく必要がある。 ・一定量まとまった英文を発信したり、受信したりする点で、量の多さから辟易する様子が見られる。帯活動を通して、負担感なく取り組めるようにする必要がある。 				
<p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペア活動やグループ活動等の学習形態を活用して、まとまった英文を書けるような活動をする。 ・ALTを活用し、パフォーマンステストを年複数回実施する。 ・一定量の英文を読んで内容を理解する帯活動を工夫する。 ・一定量の英文を話す帯活動を工夫する。 			<p>【補充・発展指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期休業中の学習教室で個に応じた指導を行う。 ・定期テストの前に、質問教室を実施する。 ・朝学習を活用して、基礎的知識の定着を図る。 	

音楽 内容及び観点別の分析				
観点	音楽への 関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
到達度	ほぼ満足できる	やや不十分である	ほぼ満足できる	ほぼ満足できる
課題点	全体的に関心は高く、主体的に行動できる。歌唱活動に関して、意欲的に取り組めない生徒への指導の工夫が必要である。	音楽を形づくっている要素について理解し、それを活かしてどのように表現を自分なりに工夫するかが難しい。	正しい発声法が安定してきている。しかし、表現の技能に自信が持てない生徒や変声期を迎えた生徒への指導の工夫が必要である。	音楽を形づくっている要素などや知識に基づき、自分の言葉で相手に言葉や文章で伝える力を伸ばしていきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・表現活動に対して自信の無い生徒が、少しずつ自分の表現を伸ばしていけるように活動内容の工夫を行う必要がある。 ・言語活動の充実を図り、自分の言葉で相手に伝えることのできるスキルを身に付けさせたい。 				
<p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現の苦手な生徒が自分の表現に自信が持てるように活動の内容の工夫や、言葉かけを大切にしていく。 ・自分が感じたことを言葉や文章で表現できるように、自分のイメージや思いを伝えあったり、他者の意図に共感したりできるように小集団（パートごと）の活動を授業に多く取り入れていく。 			<p>【補充・発展指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パート活動で、表現の苦手な生徒の個別指導を実施していく。 ・より自分の表現を磨いていけるように表現するための基礎基本の知識理解を徹底する。 	

美術 内容及び観点別の分析				
観点	意欲・関心・態度	想像や構想の能力	創造的な能力	鑑賞の能力
到達度	十分に満足できる	ほぼ満足できる	ほぼ満足できる	ほぼ満足できる
課題点	全体的に関心は高いが、時として集中力が途切れるので改善したい。	個々の発想に加え、他者からの発想も取り入れるようにしたい。	基本的な技能を踏まえた上で自分らしい表現方法を工夫できるようにしていきたい。	もう少し語彙力を増やし、言葉による表現活動の場を増やしていく。
<ul style="list-style-type: none"> ・個々に合わせた適切なアドバイスや、周囲から得られるものを受け止めるような時間を設けるように心がける。 ・学んだ技術や表現方法を次課題に応用できるような課題を設定する。 				
【改善策】 <ul style="list-style-type: none"> ・「わかる」「できる」とより実感でき計画的に物事を進めるため、スモールステップ方式で指導を行っていく。 ・発想のための資料の充実を図る（図書室利用など）。 ・集中力を付けるために5分スケッチを開始し、徐々に効果は表れている。 ・制作過程の途中にグループトークを設け、意見交換をしていく。 			【補充・発展指導】 <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて、放課後解放する。 ・テスト対策として、日頃から重要な点は授業内で繰り返し覚えさせるようにする。 	

保健体育 内容及び観点別の分析				
観点	運動や健康・安全への関心・意欲・態度	運動や健康・安全についての思考・判断	運動の技能	運動や健康・安全についての知識・理解
到達度	ほぼ満足できる	やや不十分である	ほぼ満足できる	ほぼ満足できる
課題点	全体的に関心は高いが、受け身の生徒に対する工夫が必要である。	自己の課題は理解している。その解決方法や過程を言語化して考えていくことの工夫が必要である。	技を身に付けることはできる。それをゲームや発表で、より発展させていく機会を増やしていく。	技能と理論の一体化を図る。身に付けた知識を日常生活に生かせるように指導していく。
<ul style="list-style-type: none"> ・時事的な内容の観点から、オリンピックに関する話題を取り入れながらそれぞれの種目を学ばせることを意識した指導をしていく。そのことにより、より運動への関心を高め、さらなる技能向上を目指す。 				
【改善策】 <ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動を通して、自己やグループの課題に気づき、解決方法を互いに見つけながら学習ができるようにしていく。 ・学習カード等を活用し、課題解決に向けて、主体的に取り組めるようにする。 ・保健分野との関連を意識し、心と体を一体として捉えた授業を展開し、実生活に生かせるようにする。 			【補充・発展指導】 <ul style="list-style-type: none"> ・夏季水泳指導を実施し、個に応じた補充・発展指導を行う。 ・個別に声かけを積極的に行っていく。 	

技術・家庭科 内容及び観点別の分析				
観点	生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術に ついての知識・理解
到達度	ほぼ満足できる	やや不十分	やや不十分	ほぼ満足できる
課題点	日常生活について関心をもって授業に取り組んでいる。学習ノートや課題、提出プリント等の中身に 関して細かく指導していく必要がある。	学んだ知識や技術を日常の生活の中で自分なりに工夫し、積極的に生かすことができるように、指導していく。	実習に関して興味・関心のある生徒が多い反面、技術面では習得に時間がかかる生徒が多い。実習を通して得た技術を、実生活に生かす楽しさや充実感を感じさせたい。	実践的・体験的な学習を通して、自立した生活に必要な基本的な知識を身に付けさせる。
<ul style="list-style-type: none"> ・「授業中発言・質問や活動する場面が数多くある」に関して課題がある。 ・技術面では、一人一人の進度に気を配り声かけを心がけるなど、学習支援の方法を工夫する。 ・実習では常に安全な作業ができるよう、教室環境を整え、計画的に授業を進める。 				
【改善策】 <ul style="list-style-type: none"> ・実生活と結びついた知識や技術を習得することで、自分自身の生活に意欲的に生かそうとする態度を育てる。その際には自分なりの工夫を多面的・多角的に考えさせ、本当にこれでよいのか、実生活の振り返りを通して常に考えられるような授業に努める。 ・班活動など小集団での話し合いや助け合い活動を通して、発言する機会を増やす場面の設定をする。 ・板書の文字を大きく書くなど指示が徹底するよう工夫する。 ・忘れ物に関しては、安全面・衛生面と関連させた指導を徹底する 			【補充・発展指導】 <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決型の学習形態に努め、興味関心に応じた取り組みができるよう、課題の出し方を工夫する。 ・創意工夫や技能に優れている生徒の作品や課題を見せ、多面的・多角的に考えさせるなど学習意欲を高められるようにする。 	